子育稲荷が見守る街で
子どもに寄り添う商店街へ

「子どもたちが喜ぶ事業を続けていきたい」と語る中村会長（左）と、活動を支える事務局の稲村さん

豊島区の巣鴨大鳥神社商店街（中村安次（やすじ）会長）が、子どもに寄り添う街づくりを進めている。3年前の合併で、300年以上の歴史を持つ「子育稲荷（こそだていなり）神社」が商店街エリアに含まれたことを機に、この方針を掲げた。長く子どもたちを見守ってきた地域資源を生かし、親子連れの来街を促している。

AI「ももちゃん」で来街促す

巣鴨大鳥神社商店街

取り組みを進める上で、商店街が着目したのが最新のAI技術だ。2023年度の東京都「未来を創る商店街支援事業（3カ年計画）」を活用して、対話型AIを搭載したマスコットキャラクター「ももちゃん」を開発した。街の案内役として、モニター越しの会話を通じて、地域の歴史や店の情報を教えてくれる。昨年12月に誕生1周年祭を開催したところ、悪天候にも関わらず1000人近くが訪れたという。中村会長は「幼少期からAIに触れ、商店街のことを自然に学んでもらえたら」と話す。

子ども向けの企画は別事業でも展開しており、今年2～3月には、2025年度の「商店街デジタル化推進事業」を活用した街歩きイベント「巣鴨カードコレクション」を実施した。スマートフォンを手に指定の店を巡ると、デジタルのカードと実物のシールが手に入るもので、特にシールが評判を呼んだ。店主から追加作成を求める声も上がっているという。

こうした「子ども目線」の取り組みは、商店街の活性化につながり始めている。会員数はこの2年で25店舗増え、現在は約140店舗となった。「ももちゃん」事業開始後、エリア内に学習塾の出店が相次ぎ、7店が新たに加わった。直近では、「巣鴨カードコレクション」をきっかけに音楽教室が加入したという。事務局の稲村康之さんは「事業を重ねる度に商店街の結束力が高まっていると感じる」と語る。

ビジネス街の顔もあるエリアだが、親子連れや子どもの姿も目立つようになった。中村会長は「チルドレンファーストの事業が、安心安全な街づくりにつながっている」と話す。

地域との連携も進めており、昨年度から地元小学校の児童と協力し、駅前ロータリーでシバザクラを植える活動を始めた。盆踊りや菊まつりなどの恒例行事にも引き続き力を入れていくという。

中村会長は「子育稲荷に見守られてきたこの街の歴史を大切にしながら、これからも会員皆で力を合わせ、子どもたちが笑顔になる取り組みを続けていきたい」と話している。

対話型AI「ももちゃん」は商店街の2カ所に設置。㊤は巣鴨大鳥神社の境内。㊦は巣鴨駅そばの食品スーパー。記者がおすすめの店を尋ねると答えてくれた。名前の由来は商店街が掲げるキーワード「すがも」「こども」「これからも」から

「巣鴨カードコレクション」で配られたシール。店主をモデルにしたデザインが親しみやすいと好評だった

都振連・都商連　商店街活性化研修会
生成AIの活用学ぶ

熱心に講習を受ける出席者。関心の高さがうかがえる

実際に生成ＡＩアプリを使ってみる

講師の稲益彩香氏

東京都商店街振興組合連合会と東京都商店街連合会は2月18日、商店街活性化研修会を中小企業会館にて開いた。今年度は「商店街でも使える！ やさしい生成AI活用入門」と題し、デジタルハリウッド大学非常勤講師でINAMASS㈱代表の稲益彩香氏が、生成AIの基礎から商店街での具体的な活用方法までを解説した。

講演ではまず、2022年の「ChatGPT」登場以降、AIが人間と自然な対話を行い、文章や画像などを自ら作り出す「生成」の段階に入ったと説明。最新の画像・動画生成技術についても、実演を交えてその進化の様子を示した。

商店街での具体的な活用例として、チラシやPOP、SNS向けの文例作成などを紹介し、海外客への翻訳対応もAIの得意分野だと解説した。一方で生成AIはもっともらしい嘘をつくこともあるとし、「回答が100％正しいとは限らないので、うのみにしない。特にお客様に発信する時は、必ず根拠となる情報を確認してほしい」と語った。また、セキュリティーの観点から「個人情報は決して入力しない。安易に教えないのが鉄則」と、注意点も強く促した。

後半では、出席者が各自のスマートフォンで実際に「ChatGPT」の使い方を学んだ。商品の魅力を伝えるキャッチコピーやターゲットを絞ったSNS投稿文の作成に挑戦。稲益氏は、一度の回答で諦めず「もっと短くして」「年配の方向けに書き直して」などと、根気よく会話を重ねることがより良い回答を引き出すコツだと伝授。「まずは気後れせずトライしてほしい」と語りかけた。

広域支援型商店街事業
登録書は4月13～17日で

東京都商店街振興組合連合会は、2026年度の「広域支援型商店街事業」を実施したい商店街を募集する。対象となるのは、①都内2以上の区市町村の区域で、かつ2以上の商店街の連合会が連携して実施する商店街振興施策事業②都内2以上の区市町村の区域で、かつ3以上の商店街等が連携して実施する商店街振興施策事業のいずれか。補助限度額は、2000万円以内（3分の2以内）。

昨年度は、イルミネーション装飾で商店街全体をアートな空間に彩るイベントや、花魁（おいらん）のお座敷芸と江戸あそびが楽しめるイベント、和菓子の手作り体験ができるイベントなどが行われた。

申請するには5月8日の説明会に参加するなど必要があり、あらかじめ4月13～17日の間に登録書を提出する。

5月下旬に申請を受け付け、6月中～下旬に企画内容などの審査を行う予定。

問い合わせは都振連広域支援事業担当（☎03・3542・0231）へ。

経堂農大通り（振）に最優秀賞

第25回 エネルギッシュ・タウン

東京販売士協会（大島代次郎会長）が主催する第25回「販売士が推す!!エネルギッシュ・タウン―私の街―」の入賞商店街が決定し（表）、2月18日に東京国際フォーラムで表彰式が行われた。

同事業は、「キラリと光る」独自性を持ち、新たな挑戦と「エネルギッシュな」活動を続ける商店街を消費者と専門家の視点から発掘・応援することを目的に2000年度から実施しているもの。今回は「産学連携で事業等を行っている商店街」をテーマに審査が行われた。

2025年度　受賞商店街

最優秀賞	経堂農大通り商店街振興組合（世田谷区）
優秀賞	巣鴨地蔵通り商店街振興組合（豊島区）
特別賞	代官山商店会（渋谷区）

（前列左から）代官山商店会の古﨑会長、巣鴨地蔵通り（振）の松宮理事長、大島会長、経堂農大通り（振）の川村理事長

最優秀賞は、経堂農大通り商店街振興組合（川村昌敏理事長）が受賞。東京農業大学との40年にわたる連携活動が評価された。学園祭に合わせたセールや、大学の農作物を活用した「おいも村」キャンペーンなどで連携。近隣の小中高とも社会科見学や体験授業などを通じて良好な関係を築いている。

優秀賞は、巣鴨地蔵通り商店街振興組合（松宮秀明理事長）。大正大学が商店街の一角に店舗を構え、互恵関係を維持している点が評価された。地域の団体と連携して活動し、存在感を発揮していることや店主が学生と交流し、地域愛着の醸成につなげている点も光った。

特別賞は、代官山商店会（古﨑義丸会長）で、猿楽小学校と連携したビジネス教育が評価された。商売の仕組みを伝える活動を通じて次代の来街者を育てるとともに、街歩きイベントで地域への愛着を育む取り組みも表彰のポイントとなった。

TOSHINREN-information

魅力ある街づくりのためには
“振興組合化”から！

■振興組合設立のためには？
振興組合を設立するためには、発起人が7人以上おり、次の３つの要件を満たすことが必要です
①小売商業、サービス業を営む者が30人以上近接して商店街を形成していること
②他の商店街振興組合の地区と重複しないこと
③その地区内の組合員有資格者の２／３以上が組合員となり、かつ、総組合員の１／２以上が小売商業またはサービス業であること

■振興組合設立のメリットは？
①人的なまとまりが強くなり組織力が強化されます
②組合運営および会計が明確化され新規加入促進につながります
③法律に基づく法人であるため、社会的な信用が高まります
④国や都、区市など行政の助成金や施策が活用できます

詳しくは 東京都商店街振興組合連合会 組織課へお問い合わせください　TEL：03（3542）0231